

表現の森 協働としてのアート

アートと福祉、医療、教育が会うとき

2016年7月22日(金) — 9月25日(日)



【上：画像①】 デイサービスセンターえいめいでのワークショップの様子

【下：画像②】 アリスの広場でのワークショップの様子



概要

アーツ前橋は、開館以来アートの持つ創造力を通じて地域と繋がることを目指してきました。本企画展のために、これまでアーティストと前橋市内にある福祉施設や団体と協働しながら5つのプロジェクトを実施しています。これらの活動は、今後長期的に継続していく予定です。その序章となる本企画展ではその過程を紹介し、アートが福祉や教育、医療の現場に入っていくことで、どのような化学変化が起こりうるのかということを考えます。これらの現場にアーティストと共に表現という手段で入り込むことで、アートそのものも、そこに生きる人々の日常に寄り添うようにその形を変容させていきます。そうしたリアルな現場の中で、アートが持つしなやかなコミュニケーションの可能性を探っていきます。

個人の考えを表現して他者と共有することは、私たちが想像するほど容易なことではありません。ただ、表現することは、異なる考えの人々を繋げ、理解し、共存させる力があります。私たちはこの現代社会の中でさまざまなしがらみや境界に出会い、現状の社会的価値観の中で生きることの困難さを感じることもあります。このような社会において、アートや美術館にはどのような役割が求められているのか考えていきたいと思えます。

本展の見どころ

- ① 現代の社会構造の中で生きづらさを感じる人々に対してアートはどんな役割を果たすことができるのでしょうか。前橋市内で展開する5つのプロジェクトを通じて「人と人」を繋げるコミュニケーションとしてのアートの役割を考えます。
- ② 福祉、医療、教育の現場でアートプロジェクトを行う意味は何でしょうか。施設の利用者やスタッフと共に表現活動を行うことにより福祉、医療、教育の現場における利用者を支える人々へのアートの提案をおこないます。
- ③ アートとは異なる現場にアーティストと共に入っていくことにより、単なる個人の表現ではなく、プロジェクトに参加する人々の異なる価値観を吸収し、共存させる仕組みとしてのアートの可能性を考えます。
- ④ アートそのものの意味が変化する現代において、美術館の役割とは何でしょうか。充実した関連プログラムを通じて、美術館を単なる鑑賞の場から、社会課題に関わる表現の場として提示します。
- ⑤ 2020年の東京オリンピック文化プログラムの中で、「社会包摂（ソーシャルインクルージョン）」をテーマにした企画は増えていきます。そのような状況に呼応して、前橋において長期的視野で福祉施設とアートの協働プロジェクトを展開していきます。

開催概要

【展覧会名】「表現の森 協働としてのアート」

【会 期】7月22日（金）～9月25日（日） 57日間

【開館時間】11:00～19:00（入場は18:30まで）

【休 館 日】水曜日

【会 場】アーツ前橋（群馬県前橋市千代田町5-1-16）

【観 覧 料】一般500円／学生・65歳以上・団体（10名以上）300円／

高校生以下無料

※1枚の観覧券で会期中3回まで入場可。

※8月20日（土）は、「夏休みキッズフェスタ2016」開催のため無料

※以下の方は無料でご入場いただけます。

- 1) 障害者手帳をお持ちの方と介護者1名
- 2) 雇用保険受給資格者証をお持ちの方で求職中の方
- 3) 児童扶養手当証書をお持ちの方
- 4) 要介護（支援）認定有効期限内の介護保険被保険者証をお持ちの方
- 5) 難民認定証明書をお持ちの方
- 6) 生活保護受給票をお持ちの方
- 7) 教員
- 8) 福祉施設に勤務されている方
- 9) 美術・医療・福祉・教育を専門に学ぶ大学生と専門学校生

【主 催】アーツ前橋、アートによる対話を考える実行委員会

【助 成】公益財団法人 日本財団

【協 力】一般社団法人 たんぽぽの家、NPO 法人 ぐんま若者応援ネット アリスの広場、NPO 法人 こえとことばとこころの部屋、認定 NPO 法人 日本紛争予防センター（JCCP）、ぐんま HHC、国立大学法人 群馬大学、小山登美夫ギャラリー、サヤカ・クリニック、社会福祉法人 清水の会 デイサービスセンターえいめい、社会福祉法人 上毛愛隣社 のぞみの家、社会福祉法人 フランシスコの町 あかつきの村、社会福祉法人 わたぼうしの会、南橋町自治会

【参加プロジェクト数】：8 団体

関連イベント

○「表現の森 協働としてのアート」展関連シンポジウム

日時：1日目：8月27日（土）13:00～18:00

2日目：8月28日（日）11:00～17:00

会場：アーツ前橋 ギャラリー2

講師：朝比奈千鶴（認定NPO法人 日本紛争予防センター JCCP ケニア事業担当）、石坂亥市（神楽太鼓奏者）、石原孝二（東京大学大学院総合文化研究科 准教授）、猪股剛（臨床心理士）、上田假奈代（NPO法人 こえとことばとこころの部屋 代表）、岡部太郎（一般財団法人 たんぽぽの家 常務理事）、岡安賢一（映像制作）、木村祐子（地域包括支援センター永明 保健師）、黒沢伸（金沢湯涌創作の森 所長）、後藤朋美（アーティスト）、小山田徹（京都市立芸術大学 教授）、櫻井洋樹（社会福祉法人 フランシスコの町 あかつきの村 精神保健福祉士）、佐藤真人（NPO法人 ぐんま若者応援ネット アリスの広場 施設長）、関根沙耶香（サヤカ・クリニック 院長）、滝沢達史（アーティスト）、高山明（Port B 主宰）、田中沙季（Port B 研究者）、中島佑太（アーティスト）、林立騎（Port B 研究者）、廣瀬智央（アーティスト）、町田和行（社会福祉法人 上毛愛隣社 のぞみの家 少年指導員）、林容子（一般社団法人アーツアライブ 代表理事）、森玲奈（帝京大学高等教育開発センター 講師）、山賀ざくろ（ダンサー）〈五十音順〉

参加費：無料（要観覧券）

定員：50名（先着）

申込方法：事前申込制—お電話にてお申し込みください。

■PortB 連続フォーラム

日時：7月23日（土）、7月30日（土）、8月13日（土）、9月3日（土）全日 15:00～18:00

会場：アーツ前橋 地下ギャラリー

参加費：無料（要観覧券）[申込不要]

■RHYTHM 打！えいめい ライブ

日時：7月24日（日）14:00～15:00

会場：アーツ前橋 ギャラリー2

出演者：石坂亥士、山賀ざくろ、デイサービスセンターえいめいの皆さん（予定）

参加費：無料（要観覧券）[申込不要]

■中島佑太による常夏ワークショップ

日時：8月6日（土）、9月10日（土）いずれも 13:00～16:00

会場：アーツ前橋 地下ギャラリー

アーティスト：中島佑太

プロジェクトスタッフ：群馬大学学生有志

参加費：無料（要観覧券）[申込不要]

■LDK ツーリストで行く 南橋団地 常夏を嗅ぐツアー

日時：8月7日（日）、8月21日（日）いずれも 15:00～18:00

会場：南橋公民館会議室（前橋市日輪寺町 158）

アーティスト：中島佑太

参加費：無料

申込方法：お電話又はアーツ前橋地下ギャラリーにて直接お申し込みください。

関連ツアー

■シニアツアー

日時：8月11日（木・祝）14:00～15:00

内容：作品を見て気づいたことや感じたことを話しながら鑑賞します。（お茶付き）

講師：林容子（一般社団法人アーツアライブ）

定員：10組（先着）

対象：75歳以上の方とその付添人。認知症等障害をお持ちの方もご参加いただけます。

参加費：無料（要観覧券）

申込方法：事前申込制—お電話にてお申し込みください。

■学芸員によるギャラリーツアー

日時：8月6日（土）、9月17日（土）14:50～15:50

集合場所：アーツ前橋 1F 受付

参加費：無料（要観覧券）[申込不要]

※両日とも 14:00 から「コレクション+ 行為と痕跡」展のギャラリーツアーを開催

■こどもアート探検

日時：8月20日（土）14:00～15:00

対象：小学生以上

集合場所：アーツ前橋 1F 受付

参加費：無料 [申込不要]

内容：鑑賞サポーターと一緒に作品を見て、話しながら鑑賞します。

同時開催

展覧会名：コレクション+ 行為と痕跡

会期：2016年7月22日（金）～9月25日（日）

会場：アーツ前橋 ギャラリー1

観覧料：無料

プロジェクト紹介

本展までに前橋市内の福祉施設などで行われた5つのプロジェクトと本展に参加する国内外で活動を行う3団体を紹介。市内で行われているプロジェクトは、今後3~4年間継続的に活動していく予定です。

プロジェクト① 廣瀬智央（1963-）+後藤朋美（1976-）とのぞみの家

アーツ前橋開館前に廣瀬智央と後藤朋美は、前橋の母子生活支援施設のぞみの家の子どもたちと空の写真の「交換日記」を通じて作品《空のプロジェクト：遠い空、近い空》を共に制作しました。本展では、それらの作品制作のプロセスを展示するとともに、今回新たにのぞみの家の子どもたちや母親と一緒に「タイムカプセルプロジェクト」を始動させます。彼らの生きる現在を日々の交流を通じて表現に繋げ、19年後に開かれるタイムカプセルに詰め込みます。19年という月日の中で、人と人との関係性はどのように変化してゆくのか。長期間のアートプロジェクトの可能性を探ります。

廣瀬智央（ひろせ・さとし）

1963年東京都生まれ。現在ミラノを拠点に活動。異文化の体験を推敲し多様な素材を用いて視覚化した、浮遊感を伴う作品を制作。境界を越えて異質な文化や事物を結びつける脱領域的な想像力が創造の原理となり、日常の体験や事物をもとに、世界の知覚を刷新する表現を創りだす。世界各地で展覧会多数。

後藤朋美（ごとう・ともみ）

1976年群馬県前橋市生まれ。ジャンルを超えて様々な表現方法を用い、立体作品、布、写真、光、音などを使用し屋内外で作品を発表。近年は生命の根源的な輝きを主題とした作品を発表しており、日常のささやかな喜びや発見に出会うワークショップも行っている。2014年よりThe Waters Projectをスタート。2015年東京都現代美術館20周年関連ワークショップ「音の花束」など。

社会福祉法人 上毛愛隣社 のぞみの家（母子生活支援施設）

片原饅頭で知られる宮内文作（1834-1909）が、孤児救済のために設立した上毛愛隣社が運営する施設。1948年、太平洋戦争で夫を亡くした女性や母子世帯の急増を受け、前橋母子寮（児童福祉施設）として開設。母子が20世帯まで入居でき、母親の就労や育児の相談や支援、子どもへの学習支援等を行っている。



【画像③】



【画像④】

プロジェクト② Port B／高山明（1969ー）とあかつきの村

前橋市西大室町に位置するあかつきの村は、カトリック司祭である石川神父の呼びかけにより 1979 年にエマウス運動として始まり、社会の中で困難を抱える人の社会復帰を助ける開かれた共同体として誕生しました。1982 年よりベトナム難民定住センターとしての役割を 20 年近く果たし、中でも難民船で日本へ到着後、日本社会に馴染めずに精神疾患を患った難民たちをも受け入れた日本でも特異な施設として知られます。PortB は、本施設の歴史のリサーチや施設スタッフへのインタビューを通じて、「共同体」の問題について考えます。会期中に定期的に開催されるフォーラムを通じて、新たな演劇の形を模索します。

※本事業は群馬大学との連携企画として開催します。

Port B（ポルト・ビー）

2002 年東京にて結成。高山明を中心にプロジェクトごとに形を変えて作られる創作ユニット。実際の都市を使ったインスタレーション、ツアー・パフォーマンス、社会実験的プロジェクト、言論イベント、観光ツアーなど、多岐にわたる活動を展開している。いずれの活動においても「演劇とは何か」という問いが根底にあり、演劇の可能性を拡張し、社会に接続する方法を追求している。

高山明（たかやま・あきら）

1969 年生まれ。Port B 主宰。既存の演劇の枠組を超えた作品群を発表。観客論を軸に据え、現実の都市や社会に「演劇＝客席」を拡張していく手法により、演劇のアーキテクチャを更新し、社会のなかに新たなプラットフォームを作ることを試みている。観光、建築、様々なメディアといった異分野とのコラボレーションに活動の領域を拡げ、演劇的発想・思考によって様々なジャンルでの可能性の開拓に取り組んでいる。東京藝術大学大学院映像研究科准教授。

林立騎（はやし・たつき）

翻訳者、演劇研究者。一般社団法人 Port 観光リサーチセンター所長。東京藝術大学特任講師（geidaiRAM）、京都造形芸術大学非常勤講師。NPO 法人芸術公社ディレクター・コレクティブ、港区文化芸術サポート事業評価員。訳書にイェリネク『光のない。』（第 5 回小田島雄志翻訳戯曲賞）、共編著に『Die Evakuierung des Theaters』。

田中沙季（たなか・さき）

舞台制作会社 CSB 勤務後、2009 年より Port B によるプロジェクトに、制作・インタビュアー・リサーチャーとして参加。芸術作品と現実の都市や社会のあいだのリサーチを軸に活動。一般社団法人 Port 観光リサーチセンター研究員。一般社団法人日本パフォーマンス／アート研究所メンバー。株式会社感電社が発行するブルーズマガジンにて外国人労働者を紹介するコーナーを担当中。

社会福祉法人 フランシスコの町 あかつきの村

カトリック司祭の石川神父の呼びかけにより 1979 年にエマウス運動として始まる。社会の中で生きづらさを感じる人々のシェルターとして機能しながら、生活共同体として発展した。1982 年よりベトナム難民定住センターとして、延べ 300 名近い難民を受け入れてきた。1999 年に定住センターとしての役割を終え、残された難民の障害者支援、グループホーム、地域活動センターに移管された。



【画像⑤】



【画像⑥】

プロジェクト③ 滝沢達史（1972-）とアリスの広場

アリスの広場は、ひきこもり経験者でもある佐藤真人によって二年前に前橋市内にオープンしたフリースペースです。ひきこもりを脱しても、学校や社会へ行くことに困難を感じる若者たちが、自宅とは異なる外出先として利用しています。滝沢達史は、このスペースの利用者としてここに通う若者たちとおしゃべりをしたり、卓球をしたり、同じ空間を共にすることからアーツ前橋の展示を一緒に考えます。社会参加することに困難を感じる若者たちとの対話から、現代における緩やかなコミュニケーションの可能性を考えます。

滝沢達史（たきざわ・たつし）

多摩美術大学油画専攻卒。東京都特別支援学校にて知的障害児への美術教育に携わった。以後、越後妻有トリエンナーレなど国内の芸術祭にて、土地との関わりを着想に表現を行っている。また、近年では子どもの主体性に任せた学校作りなど、試験的な教育活動にも取り組んでいる。

NPO 法人 ぐんま若者ネット アリスの広場

不登校やひきこもりの若者が家から一歩外へ踏み出すことを目的としたフリースペース。2014年に開所。一人一人の個性を尊重し、それぞれが好きなことをして時間を過ごせる空間づくりをしている。最近では、スペース内での活動のみならず、畑での作業なども導入し、若者の社会復帰支援を行う。



【画像⑦】



【画像⑧】

プロジェクト④ 中島佑太（1985-）と南橋団地

中島佑太は、前橋市を拠点に子どもの想像力や本来的に持っている表現を引き出すワークショップの実践経験をもとに、中島が5歳まで育った南橋団地の住人たちを対象にワークショッププログラムを行います。1960年代から建ちはじめた南橋団地は、全国的な団地が抱える少子高齢化や住民の孤立などの社会問題を象徴する場所ともいえます。団地が持つ住環境の特性をワークショップや人々との交流を通じて見つめることで、団地の中に存在する「他者の視線」や「不可視の境界」を考えます。

中島佑太（なかじま・ゆうた）

1985年群馬県前橋市生まれ、2008年東京藝術大学美術学部卒業。幼少期を南橋団地で過ごし、ワークショップを手法に活動するアーティスト。2012年より、清心幼稚園（前橋）で子どもたちとアートを通じて遊んだり蹴られたりする活動しながら、国内外でワークショップを展開している。

南橋団地

1961年から、前橋市が主導となり市営団地として区画整備された。その際に、隣接していた日輪寺町、荒牧町、青柳町の一部の地域を南橋町として独立した行政区とした。全29棟のうち、1961年に建てられた建物も残る。



【画像⑨】



【画像⑩】

プロジェクト⑤ 石坂亥士（1971-）＋山賀ざくろ（1959-）と デイサービスセンターえいめい

神楽太鼓奏者の石坂亥士とダンサーの山賀ざくろは、音や身体表現の即興ワークショップを通じてデイサービスセンターえいめいの利用者と交流します。4月から7月まで月に2回のワークショップを開催し、展覧会会期中にはギャラリー内で共に音作りを行います。高齢者施設での継続的なワークショップ実践を通して、高齢者とアーティストの協働の可能性を探ります。また、アートのワークショップと福祉のレクリエーション、それぞれが目指すことの相違点や共通点を再考します。

石坂亥士（いしざか・がいし）

1971年群馬県桐生市生まれ。神楽太鼓奏者（打楽器奏者）として神社や寺院といった日本古来の場所での演奏を数多く行い、同時に群馬県桐生市の神楽師として太々神楽広沢連中に在籍し、伝統の中に流れる音の世界観を吸収し、神楽太鼓、和太鼓、銅鑼などを使用し、独自の音世界を表現している。

山賀ざくら（やまが・ざくら）

1959年群馬県前橋市生まれ。ダンサー・振付家・演出家。一步一步を確実に、マイペースな長距離ダンサー。そのいい具合に力の抜けたダンスは、老若男女、世代を問わず魅了する。近年は「伊香保アバンギャルズ」をプロデュースし、ダンスや演劇などの個性的な女性アーティストが出演する公演の企画なども行なっている。

社会福祉法人 清水の会 デイサービスセンターえいめい

2001年10月開設。在宅で介護を必要としている高齢者が、日中利用する施設。自宅まで送迎し、健康チェック、リハビリ、日常動作訓練、入浴、食事等のサービスを提供する。季節ごとのイベントのほか、来所者の興味や関心で参加できるクラブ活動や、頭や身体を使ったレクリエーションを実施している。



【画像①】



【画像①】

プロジェクト⑥ 釜ヶ崎芸術大学（NPO 法人 こえとことばとこころの部屋）

詩人の上田假奈代が大阪の西成区（通称・釜ヶ崎）で喫茶店のふりをして始めたココルームでは、「表現と自立と仕事と社会」をテーマに表現を通じて社会に繋がることを目指しています。西成区のあいりん地区に住む、身寄りのない高齢化した労働者や地域の住民たちが芸術を通じて交流できる場として2012年より釜ヶ崎芸術大学を立ち上げました。日雇い労働者、ホームレス、生活保護受給者など経済の優先する現代社会の中で行き場を失った人々が自ら表現することを通じて、再び社会に繋がる釜ヶ崎芸術大学の試みは、全国でも類を見ないものです。



【画像⑫】



【画像⑬】

プロジェクト⑦ たんぽぽの家（一般財団法人 たんぽぽの家）

奈良市で活動するたんぽぽの家は、障害のある人をはじめとする、市民主体の芸術文化づくりを推進しています。2004年からは、アートセンターHANAを拠点に、ケアの現場におけるアートの役割の必要性を社会に訴え続けてきています。また、「ケアする人をケアする」という視点から、障害のある人の表現だけではなく、家族やスタッフなど、支える人たちの創造性や視点を積極的に取り入れ、そこから生まれる豊かな関係性を提示します。本団体の事務局長である岡部太郎は、生まれ育った前橋でのボランティア活動の中で、たんぽぽの家の利用者である伊藤樹里の作品との出会いがきっかけとなり、現在の活動を続けています。二人の出会いをキーワードに、福祉の現場におけるアートの実践を紹介します。



【画像⑭】

プロジェクト⑧ Art for Peace (アート・フォー・ピース)

(認定 NPO 法人日本紛争予防センター (JCCP) 瀬谷ルミ子)

桐生出身の瀬谷ルミ子は、世界各地の紛争地において、武装解除の専門家として紛争後の元兵士の社会復帰活動に長年たずさわった後、2007年にJCCP(日本紛争予防センター)の事務局長に就任、現在は理事長を務めています。そのJCCPの活動であるArt for Peaceは、ケニアのスラムの子どもたちにアートセラピーを行う事業です。紛争や暴力により、後に経済的にも精神的にも厳しい状況の中で生きる子どもたちに言葉に出せない心の内面を表現するすべを与え、傷ついた心の回復を助ける活動は、表現というものが民族や国境のような政治的な要素を超えて平和のメッセージになりうるということを私たちに伝えてくれます。



【画像⑮】



【画像⑯】

記事掲載についてのお願い

- ・掲載にあたっては、展覧会名称と会期を表記してください。
- ・画像等を掲載する場合は、キャプション・クレジット等を正確に表記してください。
- ・掲載記事やVTRは、資料として保管いたしますのでアーツ前橋までご送付ください。
- ・取材及び収録等の際は、必ず事前にお問い合わせください。

お問い合わせ先

アーツ前橋

前橋市役所文化スポーツ観光部文化国際課 担当 山田（広報担当）、今井（学芸担当）

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町 5-1-16

TEL : 027-230-1144 FAX : 027-232-2016 [http : //www.artsmaebashi.jp/](http://www.artsmaebashi.jp/)

E-MAIL : artsmaebashi@city.maebashi.gunma.jp

交通案内

●公共機関

JR 前橋駅から徒歩約 10 分

上毛電鉄中央前橋駅から徒歩約 5 分

●自動車

関越自動車道 前橋 I.C から車で

約 15 分



※地図内 P マークの駐車場のご利用に関しては、駐車券に割引処理いたします。

アーツ前橋企画展「表現の森 協働としてのアート」 広報用画像申込書

アーツ前橋 広報担当 宛 FAX 027-232-2016

ご希望の画像の番号に○をつけてください。画像(JPEG)をメールにてお送りいたします。

*本展覧会の広報を目的とする場合に限り、ご提供致します。個人のブログへの掲載や鑑賞等を目的とする場合にはご提供できません。

*掲載にあたっては、キャプション・クレジット等を正確に表記してください。

番号	キャプション・クレジット等
【①】	デイサービスセンターえいめいでのワークショップの様子
【②】	アリスの広場でのワークショップの様子
【③】	のぞみの家でのワークショップの様子 撮影：後藤朋美
【④】	のぞみの家でのワークショップの様子
【⑤】	あかつきの村での作品制作の様子
【⑥】	あかつきの村の御御堂
【⑦】	アリスの広場 提供：NPO 法人 ぐんま若者応援ネット アリスの広場
【⑧】	アリスの広場での活動の様子 提供：NPO 法人 ぐんま若者応援ネット アリスの広場
【⑨】	南橋団地の様子 撮影：木暮伸也
【⑩】	南橋団地でのワークショップの様子 撮影：木暮伸也
【⑪】	デイサービスセンターえいめいでのワークショップの様子 撮影：木暮伸也
【⑫】	釜ヶ崎の様子 提供：NPO 法人 こえとことばとこころの部屋
【⑬】	釜ヶ崎芸術大学成果発表会「釜ヶ崎オ！ペラ」 提供：NPO 法人 こえとことばとこころの部屋
【⑭】	たんぼぼの家で活動する伊藤樹里氏 提供：一般財団法人 たんぼぼの家
【⑮】	Art for Peace ケニアの子どもたちの作品 提供：認定 NPO 法人 日本紛争センター (JCCP)
【⑯】	Art for Peace ケニアでの活動の様子 提供：認定 NPO 法人 日本紛争センター (JCCP)

媒体情報 *できるだけ詳しくご記入ください。

掲載誌：	
発行日：	発行元：
貴社名：	
部署名：	担当者名：
所在地： 〒	
TEL：	FAX：
E-MAIL：	